

ふるさとの味を受け継いでね
越河小学校で「ふるさと学習」

4月27日、越河小学校で薄れかけてきた「ふるさとの味」を子どもたちに受け継いでほしいと、児童のおばあちゃんたちを先生に「ふるさと学習」が開催されました。

今年のふるさとの味は「ヨモギ団子」。5年生の児童13名は、おばあちゃんたちの手際の良さに負けないようにと、一生懸命に取り組んでいました。

児童たちは、自分たちがつくった「ふるさとの味」を、おばあちゃんたちと一緒に味わいました。



蔵王の自然を満喫しました
蔵王・春の森散策体験



福岡八宮字不忘山地内で4月24日、NPO法人「蔵王のブナと水を守る会」が、蔵王の森散策体験を行いました。

開会では、事務局長の森俊道さんが、「人や自然とのふれあいを何よりも楽しんでください」とあいさつ。

その後、参加者は会長の中村得喜秀さんの案内で、蔵王の豊かな自然の中を、ふきのとうなどを採取しながら散策しました。昼食では、蔵王で採れた山菜の天ぷらなどに舌鼓を打ちながら、雄大な自然とその恵みを満喫しました。

「あなたです火のあるくらしの見はり役」
白石市消防団春季消防演習

4月24日、白石川緑地公園で白石市消防団の春季消防演習が行われました。

演習では、市内8分団から参加した640名の団員が、部隊訓練や小型ポンプ操法などを繰り返して、日ごろの訓練の成果を披露しました。



演習の締めくくりは、消防団全68班に配備された積載車およびポンプ車からの一斉放水。ラッパを合図に68本の水柱が一斉に青空に向かって放たれました。

消防団のみなさん、市民の生命と財産を守るため、これからもよろしくをお願いします。

今年も大勢の人が訪れました
スパッシュランドパークでシバザクラが満開

5月上旬～中旬にかけ、小原地区のスパッシュランドパークで、シバザクラが見ごろを迎えました。

大型連休中の5月1日には、春の検断屋敷まつりが開催されたこともあって、家族連れなど、市内外から大勢の見物客が訪れました。

「ももいろ」や「しろ」、「むらさき」などで鮮やかに彩られた園内は、まるで花のじゅうたんを敷き詰めたよう。訪れた人たちは、思い思いに散策したり、記念撮影をしたりして楽しんでいました。



材木岩公園春の祭典
第2回春の検断屋敷まつり



小原地区材木岩公園内で5月1日、「第2回春の検断屋敷まつり」が開催されました。

この日は、検断屋敷わきの白石川にたくさんの鯉のぼりがたなびく中、地元の踊りの団体による「南中ソーラン」踊りや、陸上自衛隊船岡駐屯地の皆さんによる「さくら太鼓」の演奏が披露されたほか、紙飛行機の飛ばし大会や紙芝居、紅白餅まきなどが行われました。会場には、地元で採れた山菜の販売コーナーなども設けられ、公園内は一日中、大勢の行楽客でにぎわいました。

おいしい笹巻きもふるまわれました
片倉家中武家屋敷「端午の節句展」

武家屋敷で4月29日～5月8日、「端午の節句展」が開催され、刀剣や五月人形、のぼりの展示が行われました。

また、5月3日には、市食生活改善推進委員会の会員による笹巻き作りの実演が行われ、行楽客に無料でふるまわれたほか、片倉鉄砲隊の皆さんの協力で、鎧や兜の試着体験も行われました。訪れた人はおいしい笹巻きに舌鼓を打ったり、鎧を身にまわったりと、季節の味を楽しみながら、記念写真を撮影していました。



家族とともに100歳を迎えました 毛利ヤイさん・鈴木志ふさん・亀岡たつさんに敬老祝金贈呈

満100歳の誕生日を迎えられた毛利ヤイさん（福岡八宮・明治38年4月22日生まれ）、亀岡たつさん（小原・同年5月10日生まれ）、鈴木志ふさん（福岡蔵本・同年5月18日生まれ）のもとを風間市長がお伺いして松竹梅敬老祝金100万円を贈り、長寿を祝福しました。

毛利ヤイさんは、明治38年に白石で誕生され、現在、8人家族で幸せにお暮らしています。

長寿の秘訣を風間市長に尋ねられると「山菜やきのこなど、自然のものを食べているからです」とはっきりとした口調で語り、元気いっぱいのご様子でした。



▲毛利ヤイさん



▲亀岡たつさん

亀岡たつさんは、90歳ぐらまで山菜やきのこ取りを行い、また最近までこたつカバーなどの編み物をされるなど、今年元気に100歳の誕生日を迎えられました。

ご自身は8人の子宝に恵まれ、現在は娘さんの家族に囲まれて楽しくお暮らしのことです。

鈴木志ふさんは、現在市内の特別養護老人ホーム「えんじゅ」に入所されており、息子さんや親族の方に支えられて、今年100歳を迎えられました。

終戦にあたって家族全員で大陸から日本へ引き揚げ、その後の夫の長い単身赴任中は女手一つで子どもたちを育てられるなど、大変なご苦労をされたとのことでした。



▲鈴木志ふさん

ペットボトルで風車を製作
いきいきプラザリサイクル教室



いきいきプラザで4月16日、使用済みのペットボトルなどを加工して風車をつくるというリサイクル教室が行われました。このリサイクル教室は毎月定期的に開催されており、これまでも「広告チラシからハガキをつくる」「ネクタイからバッグをつくる」といった、環境に役立つ活動を展開してきました。

この日集まった参加者の皆さんは、持ち寄ったペットボトルや針金などを使って、思い思いの風車を製作し、扇風機にあててその完成を楽しんでいました。

風穴を利用して氷室を復原
小学生が自然を利用した知恵を学習

4月20日、市が材木岩公園内に整備を進めていた氷室の復原が完了し、小原小学校の5・6年生の児童14名が「総合的学習の時間」の一環として、風穴を利用した昔の人々の知恵を学習しました。

5月1日の検断屋敷まつりでの一般公開に先立ち行われた学習会では、下戸沢地区自治会長の斎藤満さんから、氷室が現在の冷蔵庫の役割をしていたことなど、昔の生活の知恵を学びました。



「和紀の会」パンフラワー作品展
～春のおとずれ～

4月16日、17日の両日、寿丸屋敷において第3回のパンフラワー作品展が開催されました。



パンフラワーとは、パン粘土で作った花のことで、もともとはメキシコの女性たちが、食べ残しのパンを使って人形などを作ったことに由来しています。白石出身で、東京で老人ホームなどを中心に指導を行っている山本紀子さんが、ふるさとでも教室をと、5年前から指導。展示された作品は、とてもパン粘土から作られたとは思えない美しさで、訪れた人たちは、熱心に作り方に耳を傾けていました。